

IV 財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券……償却原価法(定額法)をもって貸借対照表価額としている。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 会計方針の変更

該当なし

4. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

| 科 目 | 前期末残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 |
|--------|-------------|--------|---------|-------------|
| 基本財産 | | | | |
| 定期預金 | 6,150,874 | 0 | 0 | 6,150,874 |
| 投資有価証券 | 321,469,342 | 12,881 | 472,571 | 321,009,652 |
| 小 計 | 327,620,216 | 12,881 | 472,571 | 327,160,526 |
| 特定資産 | | | | |
| 小 計 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 327,620,216 | 12,881 | 472,571 | 327,160,526 |

5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

| 科 目 | 当期末残高 | (うち指定正味財産 からの充当額) | (うち一般正味財産 からの充当額) | (うち負債に 対する額) |
|--------|-------------|----------------------|----------------------|-----------------|
| 基本財産 | | | | |
| 定期預金 | 6,150,874 | (6,150,874) | (0) | (-) |
| 投資有価証券 | 321,009,652 | (321,009,652) | (0) | (-) |
| 小 計 | 327,160,526 | (327,160,526) | (0) | (-) |
| 特定資産 | | | | |
| 小 計 | 0 | (0) | (0) | (-) |
| 合 計 | 327,160,526 | (327,160,526) | (0) | (-) |

6. 満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

| 科 目 | 帳簿価額 | 時 価 | 評価損益 |
|------------------------|-------------|-------------|-----------|
| 野村証券 | | | |
| 第310回利付国債(10年) | 20,331,746 | 20,702,685 | 370,939 |
| 大和証券 | | | |
| 国際協力機構(10年) | 100,000,000 | 103,070,000 | 3,070,000 |
| ソフトバンク(株)第45回無担保社債(5年) | 48,000,000 | 48,072,000 | 72,000 |
| みずほフィナンシャルグループ劣後3回 | 102,677,906 | 101,960,000 | △ 717,906 |
| 第137回名古屋高速道路債券 | 50,000,000 | 50,249,500 | 249,500 |
| 合 計 | 321,009,652 | 324,054,185 | 3,044,533 |

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

(単位:円)

| 内 容 | 金 額 |
|-----------|------------|
| 経常収益への振替額 | |
| 受取寄付金 | 52,000,000 |
| 合 計 | 52,000,000 |

8. その他

金融商品の状況に関する注記

1. 金融商品に対する取組方針

当法人は、公益目的事業の財源の相当部分を運用益によって賄うため、債券、株式、投資信託により資産運用する。なお、デリバティブ取引は行わない方針である。

2. 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は、債券、株式、投資信託であり、発行体の信用リスク、市場価格の変動リスクにさらされている。

3. 金融商品のリスクに係る管理体制

① 資産運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の資産運用規程に基づき行う。

② 信用リスクの管理

債券については、発行体の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

③ 市場リスクの管理

株式については、時価を定期的に把握し、理事会に報告する。

投資信託については、関連する市場の動向を把握し、運用状況を理事会に報告する。